Grand of the state of the state

私と東京フィルハーモニー 交響楽団(音楽遍歴)

元霞が関ビル内郵便局局長外山雄三



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第22回は、郵便局長等を歴任し令和3年に瑞宝双光章を受勲され、パートナー会員として長きに亘り東京フィルをご支援くださっている外山雄三様。卒寿を迎えられた現在もコンサート通いを続けておられます。独自に編み出されたというコンサートの楽しみ方について綴っていただきました。



初詣に行き交う街中の一角から「四海波 静かにて 国も治まる 時つ風……」(謡曲 高砂より)と新年を寿ぐ唄声が。気持ち新たに「令和六甲辰年」を迎える事が出来まして誠におめでとうございます。

東京フィルハーモニー交響楽団2024年定期演奏会の開幕を嬉しく存じます。

齢九十となる私ですが、クラシック音楽との出会いは中学生時代にさかのぼります。その頃はラジオから流れる和洋合奏「元禄花見踊り」やJ.S.バッハの「イタリア協奏曲」、学校の音楽の時間で「カルメン前奏曲」を耳にしていました。

当時は何もわからず聞き流していましたが、軽快な音の流れが 乱れた心を平常心へと導き、和ませてくれたように思います。その 後、夜間高校に通いながら郵便局に就職して間もなく、職場の先 輩に誘われて近衛秀麿指揮の演奏会を聴きに日比谷公会堂を訪 れ、それをきっかけにNHK放送会館での公開番組などにも通うよ うになりました。東京フィルとの出会いは昭和28年2月、M.グルリッ ト指揮の『魔笛』です。パパゲーノとパパゲーナによる二重唱のメロ



2023年に結婚60周年を迎え、東京オペラシティコンサートホールにて記念撮影

ディーが心に残り、またこのとき先輩から「東京フィルのコンサートマスターは夏 目漱石さんのご子息」と聞いて由緒ある楽団だと強く印象付けられました。

その後の転勤で演奏会から遠のいた時期もありましたが、定年退職して自由の身となってからは東京フィルの「ハートフルコンサート」には毎年欠かさず通い、今では「午後のコンサート」シリーズや定期演奏会なども家内と一緒に楽しんでいます。笑い話ですが、過去には同姓同名のマエストロと間違われ作曲依頼を申し込まれたこともありました。

「休日・平日の午後のコンサート」ではいつもP席に座り、平土間からは窺うことのできない指揮者の表情や楽団員の一挙手一投足に至るまで観察しながら聴いています。時には(周囲を憚りながら)手拍子・足拍子をとって楽しみ、義太夫節・長唄・河東節をはじめとした純邦楽に見られる合いの手の音色や情景描写との比較に心を寄せるなどクラシック音楽への興味は尽きません。最近は記憶力維持のため、「脳トレ」として演奏会の感想や気にかかったことなど感じたままを継続して書き留めています。

東京フィルの演奏会を通じて音楽と共に生きる喜びを感じ、オーケストラが奏でる音のエッセンスを「心の栄養源」にして今日に至っております。

東京フィルは今年創設113年を迎えられます。事務局の方々の観客第一の接客行動には感服を致して居り、これからの115年、120年、200年と更なる歴史が連なることを願い、今後も「頑張れ東京フィル!!」とエールを送り続けます。

「久しき 春こそ 目でたけれ」

外山雄三(とやま・ゆうぞう)

昭和8年(1933年)東京生まれ。中央大学法学部2部卒業、文京区内の郵便局を皮切りに都内13の郵便局で総務・労務・経理を中心に、局長としてマネージメントも担当し、43年間勤める。現在は「無冠の大夫」で音楽を友として過ごす。